

## 令和元年度 第1回浦安市男女共同参画推進会議 議事要旨

1. 開催日時 令和元年10月21日(月)午後6時～午後8時
2. 開催場所 浦安市文化会館 第1会議室
3. 出席者  
(委員)  
寺村会長、菅宮副会長 津矢田委員、小澤委員、糸委員、芦田委員、塩谷委員、荻野委員、藤森委員、國井委員  
(事務局)  
企画部長、企画部次長、企画部男女共同参画センター所長、副主査、主任主事
4. 議事次第
  - (1) 開会
  - (2) 委嘱状交付
  - (3) 市長あいさつ
  - (4) 委員紹介
  - (5) 事務局紹介
  - (6) 会長・副会長の選出
  - (7) 議題  
浦安市の男女共同参画に向けた取り組みと男女共同参画推進会議(第11期)について
  - (8) 勉強会「男女共同参画社会づくりの現状とこれから」講師：寺村 絵里子氏
  - (9) 閉会
5. 配布資料
  - 【資料1】 浦安市男女共同参画推進会議設置要綱
  - 【資料2】 浦安市附属機関等の会議の公開に関する取扱い要綱
  - 【別紙1～5】 情報公開関係資料
  - 【その他】 改訂第2次うらやす男女共同参画プラン  
情報紙P-life vol.20  
男女共同参画センター案内

## 6. 議事概要

### ○市長あいさつ 要旨

現在、浦安市では、20年後の浦安市が目指すべき将来の姿を形にした基本構想、基本計画の策定をすすめており、3つの理念を掲げているわけですが、その中に「共生」という言葉がキーワードとなっている。また、少子高齢化の進行はまったなしであり、ワーク・ライフ・バランスの推進など社会経済情勢の変化を踏まえつつ、もう一歩進めなければいけないということで、平成29年の3月に「改訂第2次うらやす男女共同参画プラン」を策定し、現在、庁内各担当部署においてその推進を図っているところである。この男女共同参画推進会議においては、男女共同参画社会の形成を推進するため委員の皆様のご広く豊富な知見を活かしたご意見、ご提案をいただきながら、さまざまな施策を推進してまいりたいと考えておりますので、皆さんから、忌憚のない意見をよろしくお願ひしたい。

### ○議題

- ・事務局により、浦安市の男女共同参画に向けた取り組みと男女共同参画推進会議（第11期）について説明が行われた。

（主な意見等）

会 長 ただいま、事務局から「浦安市の男女共同参画にむけた取り組みと男女共同参画推進会議（第11期）」についての説明があつた。何か意見、質問などはないか。

では、最後の表の令和2年度の本会議の回数については、だいたい2回程度ということよろしいか。

事務局 予定では、令和2年度からプランの策定を予定している。皆様からご意見をいただきたいので、3回を予定している。

会 長 ほかにないか。特にならなければ、本日の議題は以上である。この後は、事務局に戻します。

### ○勉強会

「男女共同参画社会づくりの現状とこれから」について 講師：寺村会長

（主な意見等）

委 員 10年後に今ある仕事の49%はAIに変わっているかもしれない。10年

以上取り組んでいるが、いろいろなことがなかなか変わらないのはなぜかと思っている。最近「男性学」に興味があり、男子学生は育児にかかわりたい、育児休業をとりたい思っているが男性側にも制約が多いのではと考えている。男性も生きにくいと思っているのだと改めて思った。

委員 夫婦で子育てをする際、会社で2年間最大育児休暇がとれるが、育児休暇を男性が取った場合、2年間休んで会社に戻った時に居場所がないのではないかと、仕事の変化についていけないのではないかとという不安、そういう意識が育児休暇を取りにくくなっているのではないかと感じている。

委員 教育の現場では、進んでいる一面とこれからの面と両方あると感じている。管理職についても浦安の小中学校の管理職は女性が多い。他市は男性が多いが、浦安は女性が多いので、学校によって女性の校長、教頭の組み合わせがでてきている。これは県下で浦安くらいだろうと思う。そういうふうに進んでいる面もあれば、男性職員の子育て休暇についてはなかなか進んでいない。

会長 浦安市の小中学校ではほかの自治体に比べ女性の管理職の比率が高いということである。

委員 育児休暇取得者の2割の方の休暇取得後のデータ等があれば、取得しても大丈夫という風潮になるのではないかと。

委員 民間では女性の育児休暇もなかなか取りにくいというのが現状なのではないか。以前は、男性上位で女性は仕事にしても補助的な仕事がほとんどであった。

委員 自分の会社を見ると全然変わらないようにも思える。産休で休む人がいたら会社も大変である。休んで、また復帰することは零細企業では難しい。

委員 女性というのは男性の補助的な役割り業務をやるという時代があった。差別と区別を一緒にするからおかしくなるのではないかと。女性の特性を男性が意識して、そういう意識で社会の意識改革をしていかないとこの問題は難しい。

- 会 長 介護離職というのは男性よりも女性にも多くいるし、介護役割を担うのは女性が多いということもわかっている。女性活躍推進の指針や、これからの少子高齢化社会を迎える上ではという意味では仕事を続けられないのは重大な問題である。ほかにはないか。
- 委 員 今は日本の良さがどんどん消えていくように感じている。たとえば子育ても地域社会でお互いやってきたのが、みんな個別になってきている。昔だったら、近所の子供をみんなで育てていたし、非行がおきれば学校に伝えた。今はいろいろ矛盾が多い。女性の管理職についても制度ありきというのはどうか。
- 会 長 企業は女性管理職比率の目標値を定めており、女性の管理職登用を進めている。これは、世界的に見て日本企業の女性活躍推進が非常に遅れているためである。一方、今の人事評価というのは公正なのかという問題も新たに生まれているのは一理ある。政治の分野も同様に女性比率を定めるクォーター制という、そういった議論があるが、なかなか実現していない。経済的には効率や利益優先というのはある。利益優先にすると24時間働ける男性と家で家事労働を支える女性のほうが効率よく回る。
- 委 員 みんな仕事は仕事、家庭は家庭。そこはきちっと分けて考えている。時代がこうなったのかと思う。
- 委 員 女性の社会参加が増えてきている。以前と比べ女性の能力が上がり、社会参加につながっていると思う。今、これだけ女性が社会に進出しているのは女性のレベル、能力の高さがあるのだろうと思う。
- 事務局 次回の会議は2月頃を予定している。日程が決まり次第改めて連絡する。
- 会 長 今日は男女共同参画について意見交換ができた。これで終了する。